

明德女子準V 男子3位

卓球 全国高校選抜

卓球の全国高校選抜大会の日環アリーナ栃木で男子団体決勝トーナメント入りした。女子団体決勝トーナメント入りした。



【女子団体決勝 四天王寺—明德義塾】2—3で競り負けた明德複の青井=左=と白山(写真はいずれも栃木県の日環アリーナ栃木)

女子の優勝は四天王寺(大阪)。男子は愛知(愛知)が制した。女子団体準々決勝で遊学館(石川)、準決勝で桜丘(愛知)にいずれも3—2で勝利。四天王寺(大阪)との決勝では第1単の青井、第2単の上沢菜がそれぞれ1—3で落し、複の青井・白山組も2—3で競り負け、0—3のストレートで敗れた。

女子の優勝は四天王寺(大阪)。男子は愛知(愛知)が制した。女子団体準々決勝で遊学館(石川)、準決勝で桜丘(愛知)にいずれも3—2で勝利。四天王寺(大阪)との決勝では第1単の青井、第2単の上沢菜がそれぞれ1—3で落し、複の青井・白山組も2—3で競り負け、0—3のストレートで敗れた。

女王打倒は夏の舞台へ 明德女子

高へ、分厚かった。強烈な回転の掛かったドライブ攻撃が、バックとフォアの両面から襲いかかる。サーブもコースや高低を交え、長短を織り交ぜてくるから対応が後手を踏んだ。いいところ、その倍くらいになって返ってきた。主将青井がそう表現するほど力の差があった。

女子の優勝は四天王寺(大阪)。男子は愛知(愛知)が制した。女子団体準々決勝で遊学館(石川)、準決勝で桜丘(愛知)にいずれも3—2で勝利。四天王寺(大阪)との決勝では第1単の青井、第2単の上沢菜がそれぞれ1—3で落し、複の青井・白山組も2—3で競り負け、0—3のストレートで敗れた。

野田学園	3—1	明德義塾
遊学館	3—1	明德義塾
徳田	3—1	明德義塾
徳田	3—1	明德義塾
徳田	3—1	明德義塾
徳田	3—1	明德義塾
徳田	3—1	明德義塾
徳田	3—1	明德義塾
徳田	3—1	明德義塾
徳田	3—1	明德義塾

青井	3—1	白山
青井	3—1	白山
青井	3—1	白山
青井	3—1	白山
青井	3—1	白山
青井	3—1	白山
青井	3—1	白山
青井	3—1	白山
青井	3—1	白山
青井	3—1	白山

その中で、複の青井・白山組が昨夏の全国総体ダブルス女王を相手にフルゲームに持ち込んだのは大きな成長だ。サーブで攻め、長いラリーに打ち込まれても強気で打ち抜いた。徹底的に鍛えてきたフットワークは、同じペアに1—3で敗れた昨夏と比べても明らかに軽快だった。

準優勝校に互角の戦い 明德男子

「これまでやれるなんて思ってた。明德男子が喜びと驚きを隠せないのは、目標だった4強入りを果たせたからだけでなく、前年準優勝



【男子団体準決勝 明德義塾—野田学園】3—2で競り勝った明德複の梅村=左=と藤元

上沢菜の双子姉妹の存在なくして決勝進出はなかった。準々決勝でエース白山が単、複とも落とす中、2人で2勝。準決勝では青井・白山組が敗れた分を上沢菜が勝利でカバー。2人に頼るんじゃなくて、逆に頼ってもら

う存在にならないといけな(上沢菜)。新型コロナウイルスの影響でいつも通りの準備ができない中、いつも通りには四天王寺との決勝まで駆け上がったのは、一人一人にそんな自覚が芽生えているからだろう。

このチームが全国大会の団体戦で四天王寺に勝つたことは一度もない。それを再現できるチャンスはあと一回。今夏の四国全国総体のみだ。(谷川剛幸)

「格上と思って挑んだけど、『自分ら結構やれるな』って手応えを感じた」と主将青井。今大会エース級の動きだった梅村も「後手に回らなかつたし、むしろこっちが押していたと胸を張った。佐藤監督は今年のチームを『勝つにいく気持ちで例年以上に強い』と評す。確かに遊学館との準々決勝は、前の準2人と複を終えて1—2の劣勢から、青井、梅村が気迫あふれるプレーで連勝し、逆転勝ちしている。今回は結果、内容ともに満足に値する出来だろう。それでも、すべし選手たちが「大事な局面で1本取り切れるように」「ミスが減らしプレーの精度を上げていく」と課題を口にすることで、さらなる伸びしろを感じさせた。

次の四国全国総体に期待を抱かすではないが、いい、そんな男子明德の戦いぶりだった。(谷川剛幸)